

時事新報

第千七百四十二號
明治廿九年十一月十四日 (癸未)
發行所 東京市本町三丁目
電話 二二二
代印所 東京市本町三丁目
電話 二二二
西曆一千八百八十七年

時事新報定價
時事新報一年三百六十五日一日休刊セズ其代價
送料廣告料ハ左ノ如ク
一紙三錢(一箇月前金五錢)三箇月前金一圓五錢六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社リ直轄ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一
箇月前金六圓
時事新報廣告料前金一行ニ付
一行廿四文字
一日限 二日以上 十五日以上 十六日以上
自一行至十行 八錢 九錢 十錢 十一錢 十二錢 十三錢 十四錢 十五錢
自十一行至十行 六錢 七錢 八錢 九錢 十錢 十一錢 十二錢 十三錢
三十一行以上 八錢 九錢 十錢 十一錢 十二錢 十三錢 十四錢 十五錢

時事新報

英國東洋の航路 渡邊生

今日英國は東洋に於ける通商貿易の繁榮實に此上なくして東亞列國の商權は悉く英國商人の手裡に在りて稱するも不可なきの有様なり何故に英國が斯くまで東洋の商權を握るに至りたるやと其原因を尋ねるに抑も英國の東洋貿易に着手したるは殆んど百年以前の昔にして今と距ると凡そ五十年行名なる支那の林則徐が廣東に於て亞片數千兩を燒拂ひたる時の如きは英國人が既に專ら東洋貿易に其手を弘めたるの際にして此より先き印度の經路も悉く成り告げ英人は恰も閑暇無聊の有様にして何かな東洋に機會あれがしと祈る折柄右の騷動に起つたるは幸なれ乃ち大舉して支那を攻めたるの後兩國の締和は通商貿易の隆盛を促して英國の東洋政略も此時より大に其面目を改めたるものと知られたるが如く我日本も嘉永開國の一舉と與兩國通商の道を開きたれば英國の東洋に於ける商賣の利益も一層其歩を進めたるに相違なければ然るに在りては汽船交通の便も未だ充分ならずして殊に英國が東洋に往來するの航路阿弗利加の海岸に沿って喜望峯を迂迴するの不便非常なりしが故に隨て東洋の貿易も迅速意外の進歩を爲す能はずして唯餘々と盛況に赴くの有様ありしに千八百六十九年蘇西一百英里の運河始て開通したりしより歐亞間の交通全く變を一變して特に其利益に浴したる者は英國ありと云ひざる可らず運河未だ開通せずして喜望峯を迂迴するの際に在りては本國より印度カマツカに遠るるの距離凡そ一萬一千一百海里なりしに運河開通以來は僅に三千五百の里程を縮めて其距離七千六百海里に減じたるは前後相比して著しき相違なれば從前の航路の熱帯地方を經由して人と貨物と其炎熱に悩むの不便利は論せざるも唯單に距離の一點に於て英國の東洋貿易は此時限りより俄に長足の進歩を爲したるに相違なれり即ち今日に於て英國の東亞諸國に商權を握りたる由縁も其遠因より論じざらば全く印度貿易の東漸したる者に疑ひある可しと雖も大に其繁昌を促して今日に至らしめたるの近因中には運河の開通ありと異りて其功の多きに居ると實際に於て争ふ可らず要するに航路三千五百里の縮減は歐亞通商の趣とて俄然其面目を一新せしめたるの効驗常に非ざるべし我輩の信じて疑はざる所なり

右の如く蘇西運河は英國東洋の貿易に極めて大切なる者ありと雖も是れは唯平時通商の行はるゝ間の事にして若しも一朝歐洲に騷動起らば蘇西運河も之が爲先に遮られて英國の東洋貿易は立處に其害を蒙るゝと免れざる可し此點は英國人の最も憂慮する所にして東洋の商利を全うせんとするが爲めは自ら運河航行の權を有して平時戰時與に歐亞の聯絡を絶たしめざるの策を必要なるが故に其始め佛人と共同して運河の計畫と爲せし際より英國は頻に運河航行の自由を主張し後佛國が埃及の共同管理權を放棄するに至りて英國は承けて其經營を専らす隨て運河會社も今は殆んど英國一己の所有に歸して一百里の運河は恰も其私有の運河と爲れり列國も亦容易に英國の主權を許さずして特別に佛國の如きは百事熱心に英國の埃及政策を妨げんとするの形迹なきば謂ゆる蘇西運河航行の自由なる者も今日に於ては未だ英國の目的を達する能はざるに似たり抑も平時に在りては各國の船舶を往來するも亦素より其隨意なりと雖も戰時に當りては一切船舶の通航を禁ずべしや但し或る程度内に通航の自由を許すべきやの疑問は昨今列國の間にて未だ落着け決せざる問題にして英國の通行と許すべしと主張し佛國其他は之に反對し運河中立の會議も空しく時月を費して解散したるは實に列國の運河の航權を妨げんとするの精神に出でたるものと明白なる可し斯る情實あれば運河中立の議も英國の所望通りに行はざるは豫先視易きの條理なれば縱令一英國の所望の如く條約の面に於ては運河中立の約束をせしむるも歐洲戰争の破裂すべしに隨ち地中海岸に一強國が突然其艦隊を令して運河を衝かしめらば之を奪ふも容易にして英國東洋の通路は同時に斷絶するを免る可らず今の埃及は英國保護の下に立つ者にして恰も其屬屬に殊からずと云ふと雖も地中海の彼岸には列國互に併峙して就中佛國の海軍も侮る可らざる者あれば平時の議論は兎も角も戰時腕力の争に英國の艦隊が運河を扼守して其航行を全うせんとするの考は第一、地の理の許さざる所にして現時英國人の若目する要點も唯單に運河中立條約の成否如何にに關せずして寧ろ然るよりも平時戰時に兼ねて如何にすれば常に東洋との聯絡を繋ぐとを得べきやと専ら其邊に注意して已まざる者の如し英國東洋貿易の利害倍々増加するに従て其交通聯絡を保持するの必要も亦彌々切迫しざる者と云ふ可きのみ

新聞の交趾支那の太守フヒッソー氏に死を報きて曰くフヒッソー氏は千八百卅四年コルネカ島のコレラに生れ佛國政府に出身し種々の要職を経て何れも名譽有りしが昨年三月三日交趾支那太守の職を拜し同六月十九日を以て西貢に到着し以來非常の人氣に本年まで勤続したる然るに去る六月中暹羅皇族の同地に立寄られし折氏は偶々一醫病に罹り治療中ありしも苦痛を忍んで皇族を擁護するに種々心を以て居たりしに同十九日に至り病勢を遂に進みて同夜終に死去せしかば同廿四日同地の寺院にて壯大なる葬儀を行ひ遺骸は便船にて佛國に持運るべき筈なり又氏死去の報本國に達するや人々何れも其不幸を哀れみ袖を濡すもれも少からざりしと

○懸賞問題 澳國政府にては從來毎年一回宛海軍に關する懸賞事項十餘箇條の問題と出し之に懸賞して輿論を聽しよるが右の懸賞金額は是迄二十五萬ユーロ(一ユーロは我が國一圓九十二錢餘)乃至六十萬ユーロに増加し且名譽賞牌をも贈與して一層廣く論議を蒐集する事に定めたるより此程其筋を報告ありしといふ

○認可 東京米商會所頭取早川勇氏が退職せしに付其後任に小松兼氏を推挙して其筋へ申出たりとの事は前號の紙上に記せしが右は一昨十一日農商務省にて認可ありたり

○武總紗會社 は已に其筋の認可を得て其本社を南葛飾郡に設立せしが今度右探砂の區域を擴張する事となり更に本社を日本橋區船場二丁目一番地に移し該事業と計畫する等にて昨日其筋へ届出たり

○海軍學術會 來る十九日午後一時三十分より芝公園の外交社に於て海軍學術會を開く筈なり當日の演説者は佐佐木伸(艦船復原力即ちスチムリヤ)瓜生外吉(戰時禁制品及港口封鎖)片桐宮次郎(輸重輸)等の諸氏あり

○實業家派出 今度山梨縣下の私設に係る大牧場の一層事業を盛大に爲すべき見込にて同縣廳を經其筋へ畜産實業家の出張を請願せたりといふ

○桑苗運送 愛媛縣下にては本年大に養蠶業の進歩せしを以て同縣廳より桑苗栽培の事を獎勵し此程三田四國町の育種場へ桑苗一萬本を注文したるに付同場にては本月下旬運送すべき筈なりといふ

○密輸入の罰 横濱居留地十番館米人ウカレンは我横濱より三千五百圓計りのハンカチーフを本國へ密輸せんと企てたるに桑德稅關にて發覺し原價三千五百圓の罰金に處せらるると云ふ

○物品寄贈 素戔國陸軍少佐フォンアング氏の此程自己の發明に係る船燈并附屬品と古代の刀剣一口を軍事上參考の爲め我が政府へ寄贈したるよし

○農會會 京都府下紀伊郡の安田益太郎(石原嶺二郎)奥田作兵衛及び外十數氏は今年三月頃農事改良を目的として一會を創立し名けて農會と稱し毎月第二日曜日に會して農事改良上種々の諮問を爲す其結果を京都府農務課及大日本農會に報告し又同會及び京都府府の諮問に答ふることを勤め居りしが日を重ぬるに従つて益々盛大に赴き同府下各部屈指の老農有志家續々入會せざるに付き是れまで同郡吉祥院村の小學校を會場に充てりしは手狭となりしより先頃篤志者の寄附

義捐金を以て會場成するよし右に付き同會を大日本農會々頭二二二と云ふ因り同會は會なるものと設け壯に教育するに從加し從來の校舍手狭をも新築せたりと云ふ

○本願寺と小野商會 本願寺と小野商會如く東京の小野商會本願寺東京事務出張字典三千部と賣り渡す二月迄に皆済の約束本願寺より皆済の義捐金を以て會場成するよし右に付き同會を大日本農會々頭二二二と云ふ因り同會は會なるものと設け壯に教育するに從加し從來の校舍手狭をも新築せたりと云ふ

○山口通信 十一月四日セメント會社 縣下重光アライク氏と稱し該會社非順八氏は同三日於て高等中學校を竣工して會したると云ふ

○天長節の景況 昨日は神社に祭禮に相當しわが官吏は午前九時頃頃

雑報

佛領交趾支那太守の死去 去る十月二十七日の西貢

(未完)